

## 教職支援センター活動報告①

—面接指導（小中，養護，栄養教諭）を中心として—

教職支援センター特任教授 棕本 久雄

はじめに

令和2年度，教職支援センターは3名（週5日勤務1名，週3日勤務2名）の特任教授と教職カウンセラー（平均3～4名），事務系スタッフ1名の体制となり，令和3年度教員採用選考試験の合格を目指しての取組が行われる運びとなっていたが，新型コロナウイルス感染の状況が悪化する中，コロナ感染予防対策の視点から様々な活動に影響を与えることになった。前年度末の学校休業に引き続き，前期授業開始も大きく延期され，オンラインによる授業やオンデマンド授業が行われるようになり，キャンパスに学生の姿が見られない状況の下で前期が始まった。

教職支援センターの取組もこのような状況の下で活動が始められた。

### 1. 相談利用状況について

令和2年4月から12月までの私が担当した学生の相談利用総数（週5日勤務）は，のべ375人であった。以下に相談利用の詳細を示す。

#### 1) 月別相談利用数から

表 1. 月別相談利用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実数 (人)	32	27	61	42	37	4	2	2	1	208
のべ数 (人)	39	37	151	83	54	6	2	2	1	375

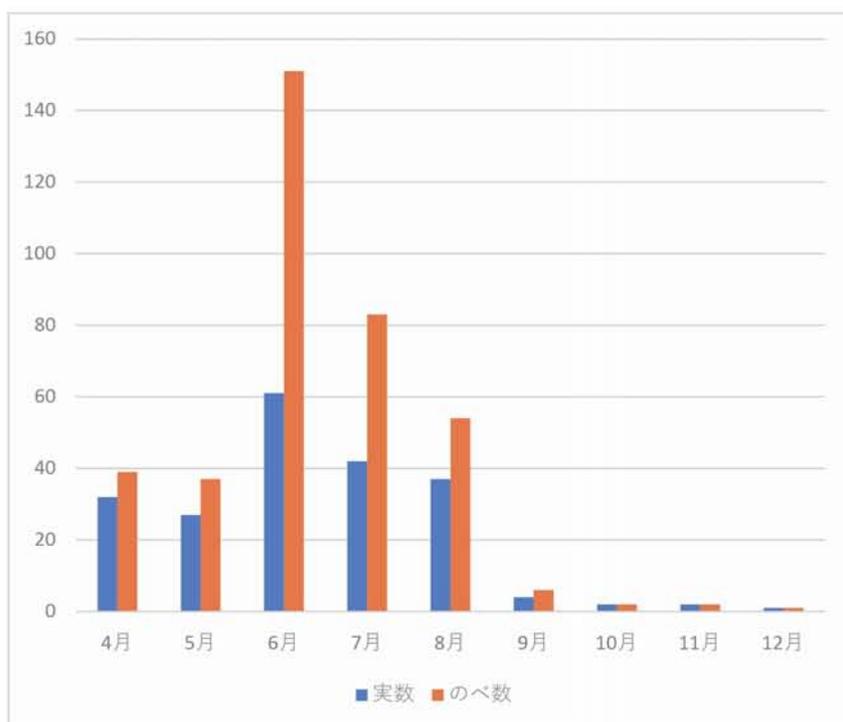


図 1 月別相談利用数

本来ならば、前年度から引き続いて利用している学生の利用が、新年度4月からも継続するものであるが、コロナ禍の状況により4月後半から5月上旬については、対面による面接指導を中止せざるを得なくなり、電話対応による教員採用選考試験に関わる相談や小論文問題の添削など、対面ではないメールや電話による活動が中心となっていて、利用件

数は伸び悩みの状況であった（志願書の自己アピール欄の添削や小論文添削については、主に教職カウンセラーの方々に担当していただいた）。

5月に入り、大学の授業に Zoom が取り入れられるようになると、教職支援センター特任教授も Zoom による授業の研修を受けて、来るべき授業に備えてはいたのだが、教育学専攻の学生から「Zoom による個人面接指導を実施してもらえないか」という切実な要望があがってきた。この切なる要望が教職支援センターを動かすことになった。一人の学生の要望に呼応して、Zoom による個人面接指導が始められ、続いて集団面接指導も開始するようになっていった。

その結果、教員採用選考試験の1次試験が開始される直前まで、Zoom による個人面接指導および集団面接指導が、私の業務予定にびっしりと組み込まれた。表に見るように、6月は61名の実数、延べ148名に上る学生と Zoom による指導を行うことができた。そして、7～9月の利用数には、主に教員採用選考試験の2次試験、3次試験を見越しての指導ということで、一次選考を通過した学生が、個人面接、集団面接の指導に熱心に取り組んだ。

後期に入り、対面授業も可能とはなったものの、コロナ感染予防の観点から授業のあり方も十分に注意喚起を促しながら活動することになった。また、教員採用選考試験も9月

教職支援センター活動報告①

末から 10 月にかけて自治体ごとに採用内定の通知があり、合否結果を教職支援センターに知らせに来る 4 回生はいるものの、相談利用者については、例年のように少ない状況であった（教職カウンセラーが主体となって実施する「就活応援セミナー」や東京アカデミー主催の「有料講座」に多くの学生が参加している）。

2) 所属別相談利用数から

表 2. 所属相談利用数

	国文	英文	史学	教育学専攻	心理学専攻	音楽教育学専攻	児童学科	食物栄養学科	生活造形学科	生活福祉学科*	現代社会学科	法学部法学科	合計
実数 (人)	7	4	6	40	0	8	0	6	0	21	2	0	94
のべ数 (人)	18	15	9	188	0	30	0	42	0	71	2	0	375

所属別相談件数を見てもとてみると教育学専攻（実数 40 名，延べ 188 名），生活福祉学科（実数 21 名，延べ 71 名），食物栄養学科（実数 6 名，延べ 42 名），音楽教育学専攻（実数 8 名，延べ 30 名）の学生からの相談件数が多かった。教育学専攻の学生については，その多くが小学校教員志望である。また，生活福祉学科の学生及

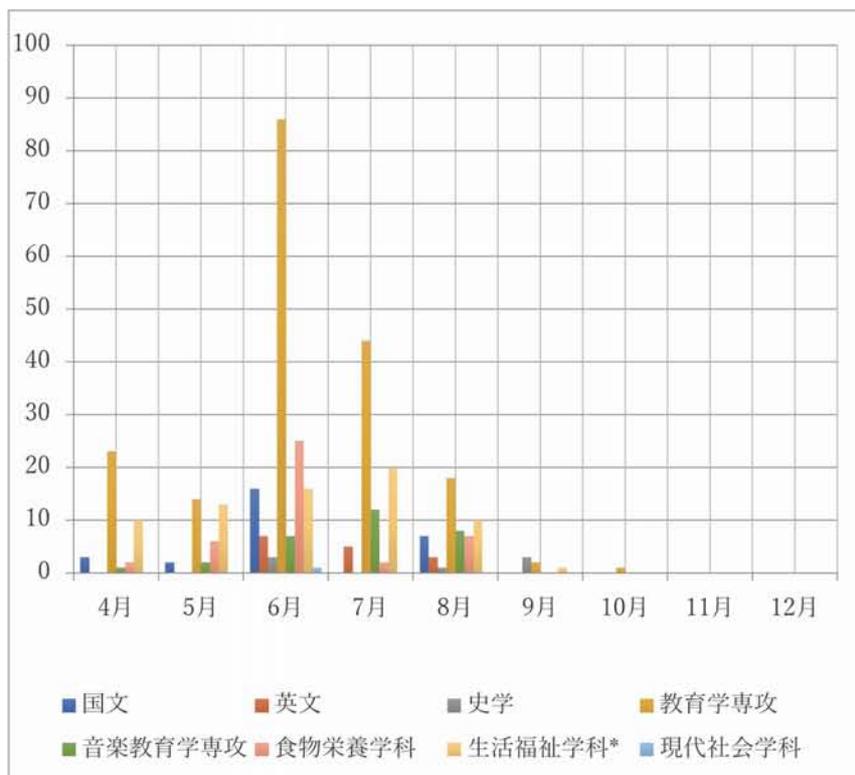


図 2 月別所属別相談利用数

び食物栄養学科の学生については、私が担当する『教育実習論』と『教職実践演習』の授業で、中・高の家庭科教員免許取得を目指す学生たちであり、授業で馴染みのある学生もいるものの、その多くは養護教諭及び栄養教諭を目指している学生である。小学校教員であれ、養護教諭、栄養教諭であれ、各自治体で行われる面接試験（個人、集団）や集団討論といった選考試験の内容については、校種の違いはあっても、教員としての資質、適性を判断されるということから、中学校教員としての経験や教員採用を担当していたという経験が活かしていればと考え取り組んでいる。また、教職課程の履修者数に比べると教職支援センターを利用する学生が多いとはいえないのが、文学部の国文学科、史学科、英文学科の学生である。しかし、これらの学生については、学科の仲間の多くが他職を希望し内定を勝ち取っている中、「教師になるのだ」という明確な意志を持ち続け、教職を目指している学生たちであるということ踏まえ支援している。

### 3) 学年別相談件数

表 3. 学年別相談利用数

	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生以上	合計
実数（人）	0	1	4	88	1	94
のべ数（人）	0	1	4	363	7	375

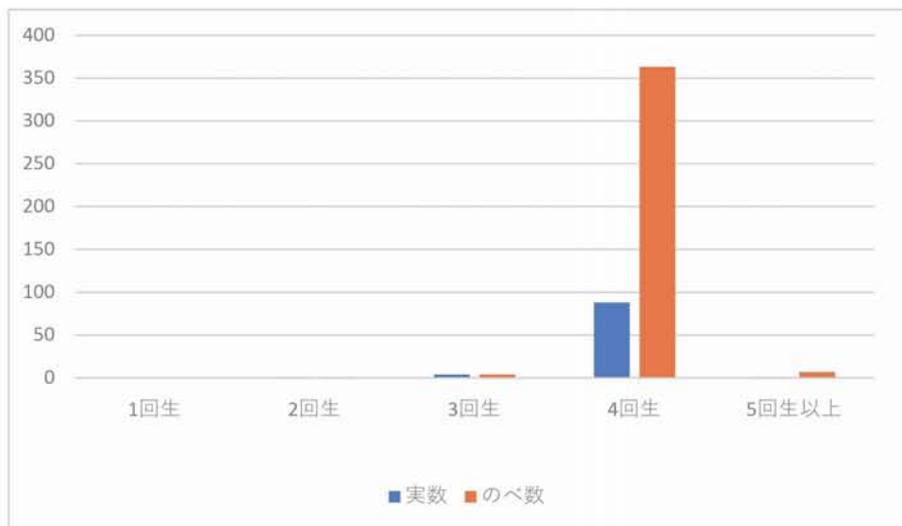


図 3 学年別相談利用数

学年別相談件数については、今年度については、断然4回生への対応に終始した結果となった。

今年度、教育実習関係のスケジュールが、コロナ禍により中止や延期となり、教職支援センターの相談業務を学生に周知する機会が減ってしまったことや、また対面ではないオンライン授業やオ

務を学生に周知する機会が減ってしまったことや、また対面ではないオンライン授業やオ

## 教職支援センター活動報告①

オンデマンド授業になったことで、1回生から3回生にわたって、教職支援センターを利用する機会が減少したのも原因の一つであるように思われる。

### ◎ある科目等履修生への取組

今年度、科目等履修生の『教育実習論』と『教職実践演習』を担当する機会があったが、本来なら教育実習までの前半の4講義分と教育実習後の4講義分を体面授業で実施しなければならなかった。しかし、科目等履修生は、近畿圏外に在住しているため大学での講義を受けるためには夜行バス等を利用して大学まで来なければならなかった。週に1回の講義のために京都まで出てくるのは体力的にも経済的にも厳しいものがあると感じていた。しかし、コロナウィルス感染が拡大する状況下で、対面授業ができなくなり、Zoom等によるオンライン授業やオンデマンド授業の代替措置がとられる中で、科目等履修生との教育実習論の講義もZoomで行うことになった。また、それだけではなく、教職支援センターでの学生対応も、教員採用選考試験に向けての面接指導や模擬授業指導についてもZoomによって取り組むこととなり、履修生も熱心に取り組んでくれた。教育実習後の講義や後期からの『教職実践演習』の私の担当する授業（対面授業を基本）では、Zoomによるオンライン授業での出席とし、毎回熱心に取り組んでくれた。コロナ感染予防の視点から取り組まれたオンライン授業が効果的に機能した例と言えるのではないだろうか。

### ◎ある学生への取組

教職を目指す学生にとって、教員採用選考試験対策に取り組む始める時期については、個々に違いはあるが、合格した4回生が3回生に語る「合格者懇談会」（今年度はコロナの関係で「合格者からのメッセージ動画」配信に変更）での報告などを聞いていると、概ね3回生の後期開始ころから始めているケースが多いようである。そのような状況の中で、より計画的に教員採用選考試験の合格を目指した取組を地道に行うことが最も合格を勝ち取る方法である。また、教職支援センターの活動もそういった学生を支援できる体制をとっているが、今年度、7月終盤の1次試験の発表間近に個人面接指導を受け持った学生がいた。1次試験では、筆記試験と集団討論（事前テーマ出題）という内容であったが、「自分なりに全力を出せた」とは言っていたのだが、いざ、個人面接指導を行ってみると、Zoomによるオンライン指導ではあったが、とにかく個人指導の経験がなく、自己PR、短所・長所、目指す教師像など、自分の考えを話すことができず、涙ぐむ状況であった。8月に入り、1次合格を伝えてくれたその学生に、何としても二次試験の合格を目指した個人面接指導が必要と感じ、学生が自主的に面接申し込みをす

る前に、こちらから指定して日時を決定し面接指導に取り組んだ。短期間ではあるが、私の想像をはるかに超えた本人の練習の成果が毎回の個人指導に現れ、2次試験の直前には、「模擬授業と個人面接」の対応をアドバイスする所がないほどに実践して見せてくれた。10月に入り、その学生が教職支援センターに、ニコニコ笑顔で合格の報告に来てくれた時ほど、この仕事について充実感を感じる時はなかった。

## 2. 今後の課題

私の勤務形態が、週5日勤務ということもあり、しかも後期に授業が集中しているために、前期は教職支援センターの業務に専念することになっている。しかし、今年度は、コロナウィルス感染予防の対策がとられたことにより、教職支援センターのガイダンス、教育実習オリエンテーションをはじめ、各自治体の採用選考説明会（昼休みに実施）等も、すべて中止になってしまった。中でも、前期に実施予定だった4回生の教育実習、その多くが9月以降に期間短縮による実施となり、巡回指導についても大学の方針によって行わないこととなり大変残念であった。

コロナ禍の状況下で、Zoomを利用したオンライン指導が始められた。5月下旬から6月、7月中旬に至る期間は、教員採用選考試験の1次試験に備えて、学生の面接指導希望が殺到する状況となったが、教職支援センターの利用は、週1回が原則となっている。また、学生が履修している授業との関係で、思うように教職支援センターを活用できないのが現状である。ある学生グループは、個人面接指導の時間を各自が確保しつつ、集団面接指導に参加することで週に2回～3回の指導を受けていた、そつない学生も見られた。

### ◎指導時間と授業時間との調整

教職支援センターの学生対応時間は、10時からの一人1時間の対応としているが、大学の講義時間との時差が生まれることから、学生が指導の予約を取る時間帯が限られてくるという問題が生じる。一人1時間の対応時間を40分間とし、大学の講時に合わせて時間設定を考えるのも検討の余地があるのではないかと考える。

### ◎今後の動向を把握する

令和2年度の教職支援センターの活動が、新たな体制で実施される予定であったが、コロナウィルス感染と学内の集団発生リスクを避けるために、授業開始日の延期及び対面授業に代わる、LMS等を活用した課題提供や遠隔授業が始まるなかでのスタートとなった。この中での活動が、今後どのような状況におかれることになっても、教職を目指す学生にとって、少しでも有効に機能するよう今年度の動向を今後継続して積み上げていくことが必要と考える。

コロナ禍にあって35人学級が実現する運びとなり、教員の定数増が見込まれる明るい

## 教職支援センター活動報告①

ニュースがあるものの、少子化が進む中、教員採用予定数は徐々に減少する傾向にある。教職を目指す学生にとって、今後より効果的な機能を発揮できる教職支援センターにしていきたいと考えている。